

子育て支援を通じた「JA地域くらし戦略」 ～JA横浜の「保育付き！子育てママ・パパ料理教室」の取組み～

調査研究部 福田 いずみ

目次

1. はじめに
2. 「保育付き！子育てママ・パパ料理教室」
3. JAのネットワーク資源から生まれる価値
4. おわりに

1. はじめに

第26回JA大会の決議において「次代へつなぐ協同」を主題として、今後のJAグループの目指す姿の実現に向けた戦略が提示された。それは、①持続可能な農業の実現のための「地域農業戦略」、②豊かで暮らしやすい地域社会のための「地域くらし戦略」、そして③地域に即した「経営基盤戦略」と国民理解の醸成、である。このうち、「地域くらし戦略」は、支店等を拠点に組合員・地域住民のくらしのニーズに応え、JAくらしの活動・地域事業を通じて地域コミュニティの活性化をめざすものとしている。

大会から1年が経過した今、それぞれのJAが考案した「地域くらし戦略」に関する様々な取組みが徐々に始まっている。

本稿では、「地域くらし戦略」に関する取組みの中から、地域の子育て世代とのつながり強化を目指して「保育付き！子育てママ・パパ料理教室」を展開しているJA横浜の取組みを紹介していく。本事例を通して、JAのネットワーク資源の価値、JAの子育て支援の取組みの意義について考えてみたい。

2. 「保育付き！子育てママ・パパ料理教室」

JA横浜では、地場産学校給食（食材の一斉供給）をはじめ、「クッキングサロン ハマッ子」（以下クッキングサロン）の運営等、多彩な食農教育事業を展開している。「保育付き！子育てママ・パパ料理教室」は、この一環として取り組まれており、料理教室に保育機能を付けることで、JAとの接点が希薄な子育て中の若い世代にも参加してもらい、JAをアピールしていきたいという目的も持っている。

なお、料理教室の概要および保育の体制については、以下のとおりとなっている。

(1) 料理教室の概要

「保育付き！子育てママ・パパ料理教室」は、平成25年10月～12月の間、同じ内容で4回開催される。JA横浜の管内は広域であるため、開催場所は3か所設けられており、いずれもJAの施設を利用して実施される。

料理教室の講師は、以前からJA横浜のクッキングサロンでつながりのある横浜の野菜ソムリエが担当し、食材はJAの直売所で販売している地場産の野菜などが活用されてい

る。料理の内容については、イタリアンを子育て家庭向けにアレンジしたもので、見た目にもかわいらしい、クリスマスのおもてなし料理となっている。

料理教室チラシ

JA横浜
保育付き！子育てママ・パパ料理教室


JA横浜では、子育て世代のお母さんやお父さんを対象に「保育付き！子育てママ・パパ料理教室」を開催します。未就学児をお預かりして、料理教室を楽しんでいただけます。ご参加をお待ちしています。

◆開催日・場所
 10月4日(金) クッキングサロン ハマツツ (横浜市営地下鉄センター北駅 徒歩1分)
 10月29日(火) クッキングサロン ハマツツ (横浜市営地下鉄センター北駅 徒歩1分)
 11月29日(金) みなみ総合センター (横浜市営地下鉄立降駅 徒歩4分)
 12月9日(月) JA横浜 本店 (相鉄線二俣川駅 徒歩3分)

◆開催時間
 10時30分～14時00分

◆料理講師
 横浜の野菜ソムリエ「はまキッチン」

◆料理内容
 ～イタリアンでクリスマスのおもてなし～
 ・ミートローフ with スノーマン (使用食材：合挽き肉、玉ネギ、ミックスベジタブル、卵、牛乳)
 ・野菜と生ハムのゼリー寄せ (使用食材：生ハム、季節の野菜、温泉卵)
 ・簡単！エリアタリア風 (使用食材：シーフードミックス、玉ネギ、パプリカ、トマトの水漬)
 ・小松菜の蒸しケーキ (使用食材：小松菜、小麦粉、ベーキングパウダー、卵、牛乳)



◆保育講師
 JA横浜助けあい結核「たすけ愛の会」会員
 東京家政学院大学 現代生活学部 児童学科 (田尻さやか助教・学生)

◆対象年齢
 1才～4才 ※1才未満のお子様をお連れの場合は、ご相談下さい。

◆参加費
 2,000円 (定員：18組32名)

◆持ち物
 エプロン、三角巾、手拭きタオル、筆記用具、お子様に必要なオムツ、パンツ等

◆お申込
 10/4(金)・10/29(火) 8月14日(木)より申込開始
 11/29(金)・12/9(月) 9月27日(金)より申込開始
 電話又はJA横浜クッキングサロンHPよりお申込み下さい。
<http://ja-cookingsalon.jp/>

◆キャンセル料について
 開催日の2日前(土・日・祝日除く)より、キャンセル料として全額お支払いいただくこととなりますのでご了承ください。

◆お問合せ先
 JA横浜 きた総合センター 地域ふれあい課
 ☎ 045(942)2312 (平日9:00～16:00)

(2) 保育体制

この料理教室における保育のスタッフについては、JAの助けあい組織「たすけ愛の会」に保育ボランティアを募るとともに、保育内容については、(以前からJA内の別の部署でつながりのあった)東京家政学院大学に要請し、同大学の児童学科の教員等の協力を得ながら事前準備を進めた。保育ボランティアに対する保育講習会の開催をはじめ、玩具や遊具など保育の環境整備に関するアドバイスなどを受け体制を整えた。実施日の直前には、保育を予定している子どもの名前や月齢、アレルギーの有無などを記した「確認事項一覧

表」を作成し、詳細についてのミーティングも実施している。

去る10月29日に実施された料理教室では、子ども(17名)に対して助けあい組織の保育ボランティア(9名)、JAの担当職員(5名)に加え、東京家政学院大学の児童科の助教(1名)のサポートと学生ボランティア(2名)も加わり、保育スタッフ合計17名という十分な人員体制のもとで保育が行われた。子どもを預かる場所については、親子が離れて過ごすことで生じる不安感を軽減するために調理室のすぐ横に設置し、料理教室終了後には親子で一緒に試食できる体制も整えられている。

保育の様子



料理教室の様子



親子で試食の様子



事後に行ったアンケート調査では、「保育スタッフが多く、安心して子どもを預けられた」「ふだんはふれあう機会の少ないおばあちゃん世代の方と遊んでいただくよい機会でした」といった感想が寄せられていた。

(3) JAと大学の連携

「保育付き！子育てママ・パパ料理教室」の最大の特徴は大学と連携して保育を行っていることである。子育て支援の必要性が叫ばれ、全国各地で子育て支援の取組みが行われている中、既に一部のJAにおいて子育て支援センターの運営や子育てひろばなどを実施している。しかしその一方で、子育て支援に取り組みたいと思っても、実施内容や乳幼児を預かる時の安全管理など、保育の専門性を持たない不安から二の足を踏むJAがあると聞く。JA横浜の「保育付き！子育てママ・パパ料理教室」は、大学という専門機関と連携することで、そういった保育の専門性への不安を解消し、リスク管理をはじめ多様化する今の子育て世代のニーズに対応している。

3. JAのネットワーク資源から生まれる価値

「保育付き！子育てママ・パパ料理教室」は、JAが中心となって企画し、助けあい組織と大学が連携することによって作り出されたものである。その結果、参加者をはじめそれぞれの組織に固有の価値をもたらしている。

(1) 参加者

参加者のほとんどは、子どもを幼稚園や保育園に通わせていない、在宅で育児を行う母親である。今、社会問題となっている育児困難の背景には、核家族化や地域関係の希薄化、少子化の進行などがあげられ、特に在宅で育児を行っている時期（0歳～3歳くらい）は社会とのつながりを持つ機会が少ないことから、親子が家の中に孤立する「密室育児」や、幼児虐待などに陥りやすい。

この保育付きの料理教室は、単に子どもを預かって料理教室に参加してもらうだけでなく、普段は家にいることの多い子育て中の親同士が交流する場を提供するという意味も持っている。そして、母親ばかりでなく子ども、子ども同士の関わりや、様々な世代の人たち（助けあい組織・学生ボランティア）とふれあう機会にもなっている。

(2) 助けあい組織

JA横浜の助けあい組織「たすけ愛の会」では、以前から子育て支援の取組みを検討していたが、機会がなかった。しかし会員の中には既に行政の子育て支援に携わっている者もあり、今回の保育ボランティアには約40人¹もの会員が手をあげている。

料理教室終了後に行われたスタッフのミー

1 JA横浜「たすけ愛の会」会員286人のうち、保育ボランティアへの参加を希望した数

ティング会では、「子どもと接していてとても楽しかった」という感想とともに、事前に行われた保育講習会で学んだことが役立ったことも報告されていた。

「たすけ愛の会」会長の駒てる子氏は、「今回のような取組みを通して、JAが子育てに協力している姿勢を見せ、地域の若いお母さんとのつながりを持っていけたらと考えている。子どもには小さいうちからJAにかかわって大きくなってほしい。そのお手伝いができればうれしい」と保育ボランティアへの意気込みを語った。

同会では、これまでミニデイサービスなどの高齢者に対する取組みを行ってきたが、今回保育ボランティアとして参加した「保育付き！子育てママ・パパ料理教室」の取組みを契機に活動の幅を広げ、更なる組織の活性化を図っていきたいとしている。

(3) 大学

保育指導を行った東京家政学院大学の助教・田尻さやか氏は、「保育付き！子育てママ・パパ料理教室」にボランティアとして参加した学生の最大のメリットとして、幼稚園や保育園における施設実習とは異なり、様々な立場の人々と保育を実践するという貴重な経験ができたことをあげている。

筆者が学生に対して行ったヒヤリングにおいても、「今回参加して保育実習では見ることのできない子育てのベテラン（助けあい組織のボランティア）ならでは子どもとのかわり方を見ることができ、大変有意義であった」という感想が寄せられた。

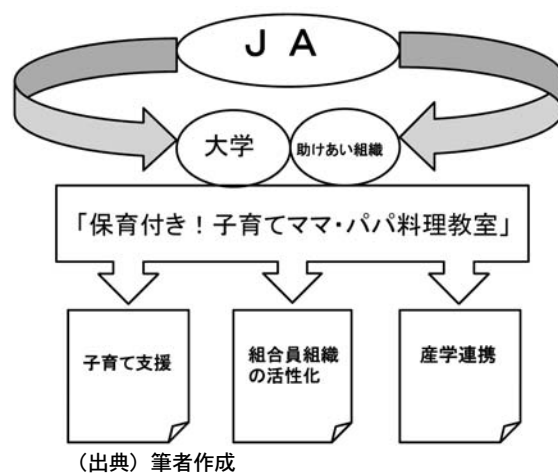
大学側としても、一方的に専門性を提供するだけでなく、共に取り組むことで大学という教育機関の領域を超えたネットワークの中に学びの場を得ることができ、産学連携の相乗効果があるととらえている。

(4) まとめ

JA横浜の「保育付き！子育てママ・パパ教室」で注目すべき点は、全てJAの既存施設やネットワーク資源を活用した取組みであるということである。クッキングサロンや直売所、料理講師、助けあい組織と大学の連携をJAが中心となって上手くまとめ上げている。

その結果、「子育て支援」「組合員活動の活性化」「産学連携」といった価値を生み出している。

JAのネットワーク資源から生まれる価値



(出典) 筆者作成

4. おわりに

本稿で取り上げたJA横浜の「保育付き！子育てママ・パパ料理教室」の取組みには、料理教室を通してJAとのつながりが希薄な地域の若い子育て世代への働きかけを行い、JAをもっと身近なものに感じてほしいという目的とともに、子育て支援という側面も持っている。

現在社会問題となっている密室育児や虐待などの育児困難は、地域のつながりの希薄化や少子化に影響するものとされている。この問題を解消していくには、行政だけでなくN

PO法人、企業、団体など多様な主体の参画による地域の支え合いが必要であり、地域の子育て力の向上が求められている²。

J Aが地域の子育て支援に参画していく場合、J Aの持つ強い地域密着性をはじめ、農業団体としての食や農に関する専門性、情報等を最大限に活用したJ Aならではの特色を、前向きに出していくことが重要であると考え。筆者が行ったアンケート調査³においても、J Aに求める子育て支援の最上位は、「食農教育」「農業体験」であった。そういった意味においても、料理教室や収穫体験などの食や農に関する取組みを通して、地域の子育て世代への働きかけを行っていくことは、地域が望むJ Aの子育て支援の姿であり、またJ Aをアピールする手段としても効果的であると考え。

子育て支援は、母親を助けるためのサービスと考えられがちであるが、子どもを中心と

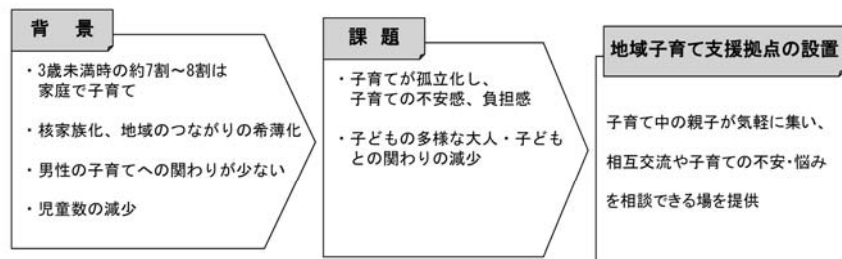
した交流から地域のつながりを育むことは、地域の未来を創造することでもある。J Aが地域の中に持っている資源やネットワークを活用し、国の重要課題である子育て支援を通して地域社会づくりに貢献していくことが、若い世代からのJ A事業への理解とともに、将来のJ Aの組織の根を広げていくことにもつながっていくのではないだろうか。

参考文献

- ・北川太一（2008）『いまJ Aの存在価値を考える「農協批判」を問う』家の光協会
- ・森田明美（2011）『よくわかる女性と福祉』ミネルヴァ書房
- ・福田いずみ（2013）「農協における乳幼児支援の現状と課題」『共済総合研究』No. 66、農協共済総合研究所（現・J A共済総合研究所）

子育て支援拠点の必要性

厚生労働省の地域子育て支援拠点事業説明資料より



(出典) 筆者作成

2 平成24年8月に成立した「子ども子育て関連3法」では、主なポイントの1つに「地域の実情に応じた子ども・子育て支援の充実」をあげ、地域ごとに異なるニーズに対応していくことを重要視している。

3 アンケート調査に関しては、福田いずみ（2013）「農協における乳幼児支援の現状と課題」『共済総合研究』No. 66、pp. 114-121. 参照